

1. はじめに

(1) ホッケーと私

- ①自己紹介（選手歴・指導歴）
- ②ホッケーとは（VTR）

(2) 島根県（奥出雲）のホッケー

第37回国民体育大会（昭和57年くにびき国体）ホッケー競技が現奥出雲町（旧仁多町、横田町）を会場に開催されることが、昭和47年に決定し、島根県のホッケーがスタートすることとなる。昭和49年に島根県ホッケー協会を設立し、翌年以降から中学校・高校にホッケー部が、各小学校にはスポーツ少年団が誕生していった。また、成年男子クラブチームや女子実業団チームも結成され、各年代の強化が図られ国体への準備がなされていった。国体後もさらに普及を図っていき、島根県ホッケー選手権大会や中国小学生ホッケー交流大会などの各種大会をスタートさせ、ホッケーの火をさらに大きくしていった。小学校でのホッケーの浸透から中学校・高校のホッケー強化が年々進み、各年代の全国大会において上位の成績を残している。さらに平成17年度から成年男子クラブチームの島根クラブ（平成18年度から Selrio 島根に名称変更）が日本リーグに参戦し、地元シリーズの試合も行われ町技としてのホッケーは大きな広がりを見せている。

男子ホッケー部全国大会戦績

年度	高校総体	国体	全国選抜	年度	高校総体	国体	全国選抜
S51	-	-	-	H7	準優勝	準優勝	3位
52	-	-	-	8	3位	5位	ベスト8
53	-	-	-	9	3位	5位	ベスト8
54	2回戦	-	-	10	2回戦	-	1回戦
55	-	-	-	11	1回戦	4位	1回戦
56	-	-	-	12	ベスト8	5位	ベスト8
57	2回戦	5位	-	13	ベスト8	5位	3位
58	-	-	-	14	1回戦	3位	ベスト8
59	2回戦	-	ベスト8	15	2回戦	3位	優勝
60	2回戦	-	-	16	準優勝	優勝	1回戦
61	1回戦	5位	-	17	ベスト8	5位	2回戦
62	-	5位	-	18	優勝	4位	3位
63	1回戦	-	ベスト8	19	優勝	優勝	優勝
H1	ベスト8	-	ベスト8	20	優勝	優勝	1回戦
2	-	-	1回戦	21	ベスト8	優勝	優勝
3	優勝	準優勝	-	22	ベスト8	3位	大会中止
4	2回戦	-	準優勝	23	優勝	3位	ベスト8
5	1回戦	-	-	24	準優勝		
6	2回戦	3位	優勝				

2. 研究の目的（課題設定の理由）

奥出雲町のホッケー競技は小学校から中学校へそして高校へつなぎ成年まで普及・強化が広がっていたが、特に平成15年度から平成24年度の10年間に横田高校男子ホッケー部は、全国大会で優勝11回、準優勝2回、3位4回と全国の上位入賞を果たした。これは、くにびき国体を目標にホッケーを普及・強化していき、国体後もその取り組みをさらに広げていった結果であることは間違いないが、結果が連続して出始めたこの10年間の各年代の取り組みについて、調べることで今後の競技力向上に向けての方法や課題が見つかるのではないかと考え、課題設定を行った。

3. 調査・研究の方法

（1）概要

平成16年度に中国地区で全国高等学校総合体育大会が開催され、ホッケー競技は島根県の旧仁多・横田両町を会場に行われた。高校生の全国大会がこの奥出雲町で開催されるのは国体も含めて3度目（昭和57年国体・平成7年高校総体）だったが、この大会を目指して平成13年度から中学校・高校に新たに指導者を招聘して活動がなされていった。よって、この平成13年度からの各小学校・中学校・高校・成年の指導者への聞き取り調査をし、各指導者が特にどんな取り組みを行ってきたのか調べ、小・中・高・成年のつながりが子供たちにどのような変化を起こしていったのかを考察していく。その結果を踏まえて、その中に課題等を発見していきながら今後の競技力向上につなげていく。

（2）対象

- ①各小学校（スポーツ少年団）の指導者
- ②仁多・横田両中学校の指導者
- ③高等学校の指導者
- ④成年の指導者

4. 結果

各年代の指導者への調査を通して、この10年間の特筆すべき取り組みとして、3つの取り組みがある。

（1）奥出雲町選抜チーム

小学校でのホッケーの指導は、学校によって少し違いがあり、小学校の先生が指導者となり活動している学校と地域でホッケーをしていた方が外部指導者として指導をし、活動をしている学校がある。よって、長い間、指導をしておられる方がいる学校もあれば、数年で指導者が変わる学校もある。近年は子供の人数も減ってきていたり、年によっては学校の一学年で1人もホッケーする子供がいない時もある。そのような中で、平成15年度より旧横田町（合併後は奥出雲町）の体育協会のホッケー部が主管となって始められた「横田町選抜チーム」の結成である。これは、ホッケーをする子供の一貫指導のスタートとして普及と強化を目的に始められた。町の体育協会ホッケー部と教育委員会、各小学校でホッケーを指導している先生やホッケーのOG・OBが役員・スタッフとなり指導を行い、普段は各小学校のスポーツ少年団などで活動している子供たちが集まって練習を行い、3月に大阪で行われる6人制のホッケー大会に出場するという活動をしている。それまでは、各小学校単位で6人制ホッケー大会に出場していたが、これを機に、各小学校という枠を超えて子供たちがホッケーをたくさんの仲間と共有し、中学校での部活につながっていった。

町選抜チーム参加人数

年度	参加人数		チーム数		大会回数	大会成績（6人制ホッケー大会：3月）	
	男子	女子	男子	女子		男子	女子
「横田町選抜チーム」							
H15	11	11	1	1	38回	1部：予選リーグ	1部：予選リーグ
H16	17	18	2	2	39回	1部：予選リーグ	1部：予選リーグ
横田町と仁多町が合併し、奥出雲町となり「奥出雲選抜チーム」となる							
H17	20	13	3	2	40回	1部：準優勝	1部：準優勝
H18	19	19	3	2	41回	1部：第5位	1部：準優勝
H19	16	16	2	2	42回	1部：予選リーグ	1部：予選リーグ
H20	13	13	2	2	43回	1部：準優勝	1部：準優勝
H21	7	10	1	1	44回	1部：予選リーグ	1部：第4位
H22	0	7	0	1	45回	各小学校単独で出場	1部：予選リーグ
H23	11	10	1	1	46回	1部：第4位	1部：予選リーグ
合計	86	88					

(2) オーストラリアの指導者・ナショナル選手との交流

平成15年度より、常に世界のホッケートップレベルのオーストラリアのナショナルコーチやナショナル選手を招聘し、奥出雲町の指導者の養成と全国高校総体（中国04総体）の高校生の強化、そして小・中学生への普及・強化活動等を目的として平成20年度までに合計5回のオーストラリアと奥出雲の交流が行われた。また、平成15年度には指導者4名、高校生3名、中学生3名、計10名でオーストラリアへホッケーを学びに行く遠征も行われた。

① 内 容

- ・各小学校、中学校をまわったのホッケークリニック
- ・町全体の小・中学生を集めてのホッケークリニック
- ・ホッケー指導者の講習会
- ・高校部活動の指導
- ・全国高校総体（中国04総体）時の試合分析
- ・社会人チームの全国大会（全日本選手権）時の試合分析
- ・ホッケー技術のビデオ指導 等々

② なぜオーストラリアだったのか

- ・世界でのホッケーメジャー国 → 世界ランキングは常に上位
〈日本ではまだ行っていない進んだ面〉
 - 技術・戦術なこと ○ホッケーに対する考え方
 - 練習の内容 ○試合の分析力

・指導の体制を学ぶため → 学校単位から地域のスポーツとしての考え方

◇日本は … 学校の部活動としての指導がメイン
小・中・高・大学・一般という学校単位に分けられる

↓

それぞれで指導者が変わり、指導方法や戦術、考え方も変わる場合もある

◆オーストラリアは … ホッケーは地域のスポーツの1つという考え方
(他にクリケット・オーストラリアンフットボール・テニス・サッカーなどがある)
ジュニアユース・ユース・ジュニア・シニアを目指すなかで
同じ様な指導方法や戦術、考え方でレベルアップしていく

↓

一貫指導体制で普及・強化がなされている

□奥出雲町は … 地域で小・中・高とあるがバラバラの指導や戦術、考え方の時期もあり、決して一貫指導をしているとはいえない状況もあった。

『一貫指導体制を目指さないか』という考えから、そのきっかけとなるようにと、この交流事業が行われた。

オーストラリア交流事業

回数	年度	指導者数	選手数	形態	指導内容
第1回	H15	3		招聘	ホッケークリニック 指導者講習会
第2回		4 (参加指導者)	6 (参加選手)	遠征	ホッケークリニック 指導者講習会
第3回	H16	4		招聘	ホッケークリニック 指導者講習会 高校・社会人の全国大会試合分析
第4回	H19	1	1	招聘	ホッケークリニック 指導者講習会
第5回	H20		1	ビデオ	日本での技術練習を収めたビデオを オーストラリアに送り、それに対して 指導・助言をしてもらう

(3) Selrio 島根の日本リーグ参戦と活動

- 平成17年度から成年男子チーム「島根クラブ」が高円宮牌男子ホッケー日本リーグへ参戦。
(平成18年度からは名称を「Selrio 島根」と変更)
- 日本リーグの試合、年間10数試合の中で地元シリーズの開催
- 地元シリーズ開催時に、日本リーグ島根シリーズ参加チームの選手によるホッケークリニックを開催
- 年に数回、Selrio 島根によるホッケークリニックを開催
- 小学校・中学校・高校の各種大会において審判や役員などのサポート
- 各小学校への訪問指導

☆成年男子チームの日本リーグへの参戦は…

- ・日本のトッププレーヤーたちの生のプレーを間近に見られる
- ・ホッケークリニックを通して、普段はホッケーを一緒にできない選手との交流ができる
- ・日本リーグ参戦のチームとの練習試合で中学生・高校生もレベルアップ
- ・高校を卒業し、大学や社会人になった選手がさらに高いレベルでのホッケーをする場の提供

Selrio 島根の日本リーグ参戦記録

年度	大会回数	成績	ホッケークリニック	高校生との練習試合数
H17	第4回	第5位	島根シリーズ無しの為、 ホッケークリニックは無し	年間5～10試合
H18	第5回	第7位	毎年、小・中学生 併せて約200名は 参加している	
H19	第6回	第8位		
H20	第7回	第8位		
H21	第8回	第7位		
H22	第9回	第10位		
H23	第10回	第8位		

5. 考 察

今回の調査の結果で考えられることは、1つ目は、奥出雲町選抜チームに参加していた子供たちの多くが中学校、高校へとホッケーをさらに続けていき、この10年間の成績を取めたメンバーとなってくれたということである。競技力の向上は、スタートとなるジュニア期の指導をいかに大切にするかにもかかっていると伺えた。たくさんの仲間とホッケーをする楽しさを感じながら、大会では優勝を目指して他県の子供たちと刺激し合う。小学生で、毎年これだけの規模の交流を行えるのもホッケーの良さであり、人間的な視野を広げることにもつながっていると考察できる。

2つ目は、オーストラリアのナショナルコーチ・選手との交流によって、子供たちに「世界」というものを感じさせたのは間違いないが、それだけではなく中学校や高校を指導する指導者にとっては新しい価値観

を生むことにつながったと考えられる。新しい技術や戦術、練習方法やホッケーの強化の考え方、そして試合の中での分析力やVTRなどの機器を使用しての分析の方法など、今までの奥出雲町の指導法とは異なるものもたらされ、その指導が基本となって高校総体（中国04総体）も準優勝にまでのぼり、同年の選抜・国体ではみごと優勝につながったのではないかと考察する。さらに、その後も数回交流をすることでさらに新たな技術をもたらし、指導者の指導の幅を広げるものとなったと考えられる。この時に指導を受けた指導者が、小・中・高の指導にかかわり、一貫指導体制が形になった結果が、この10年間の成績につながったと伺える。

3つ目は、中学生や高校生が身近に日本のトップレベルを感じられる環境ができたということだと考えられる。日本のホッケーのトップリーグに参戦している成年男子チームと練習試合をさせてもらえたり、ホッケーを指導してもらえたり、試合を間近で見ることで、知らず知らずのうちに高いレベルに目標をもっていける環境になったことで競技力も向上し、競技成績も上がっていったのではないかと考察できる。

おわりに

競技力の向上にはこれが一番良い！というものは、まだまだ勉強不足で明確な答えは、私自身の中にも見つけられていない。ただ今回の研究を通して、奥出雲町でのホッケーの競技力向上はジュニア世代から始まって、小学校、中学校、高校、そして成年と、大学は残念ながら無いのだが、この各年代の指導が一貫して同じ目標を掲げ、考え方を共有し子供たち・選手たちを指導し導いていけば競技力は向上していくのではと感じている。そして、ただホッケーの技術を向上させるのではなく、その技術を扱う体（体力や筋力）や心（勇気や自他を尊重する心）も合わせて、人としての成長が競技力の向上につながるのではないだろうかと考えている。

これからこの地域の子供の数の減少や指導者の高齢化、保護者の経済的な面の負担や地域の理解など、今後のホッケーの存続に関わるような問題や課題も数多くある。その中で、横田高校といたら、ホッケーだ！とたくさんの人に言われるような存在であり続けていきたいと考えている。そのためにも今回の研究で得た知識や情報、各年代の指導者との連携、そしてなにより生徒とともに成長していくという情熱を持って指導をしていきたいと考える。